



### アマモ類の駆除作業が

### アサリ増殖場で実施される

駆除作業は、平成十一年七月二十八日に風蓮湖ハルタモシリ島の増殖場(本号表紙)でトラクターによる耕耘作業として実施されました。駆除作業は、増殖場の造成区1に競合生物であるアマモ類の繁茂が確認されたため別海漁業協同組合が急遽行ったものです。二週間前の増殖場での資源量調査時にアマモ類がみられ、その時は急いで駆除作業を実施するほどでなかったようですが、その後の晴天続きで繁茂したようです。

駆除作業は、根室北部地区水産技術指導所と釧路水試資源増殖部の参加のもと午前九時から始まり、上げ潮により造成区1に海水が浸り始めたころ終了となり、三時間あまりに渡りました。北海道のアサリ増殖場は、一般に夏季の大潮時干出時間が四時間以内となっており、ほぼ干出時間いっぱいには駆除作業をしたことになりません。駆除面積は、三時間で造成区の二分の一(約一・五ha)ほどでした。また、耕耘によるアサリへの影

響を配慮して、トラクターの速度を低速とし、耕耘部分(鋤柄・スキガラ)の爪をアサリに優しい形としていました。耕耘の幅は一・一六mで、その深度はアサリの埋存深度、増殖場の砂層厚などを考慮して七〜八cmでした。

実施されたのですが、アサリの破損が少ないとはいえ皆無ではなく、アマモ類の駆除作業はアサリ増殖場や天然漁場での漁場管理手法の一つとして重要なものですので、今後アサリにより優しい駆除作業技術の確立が望まれます。

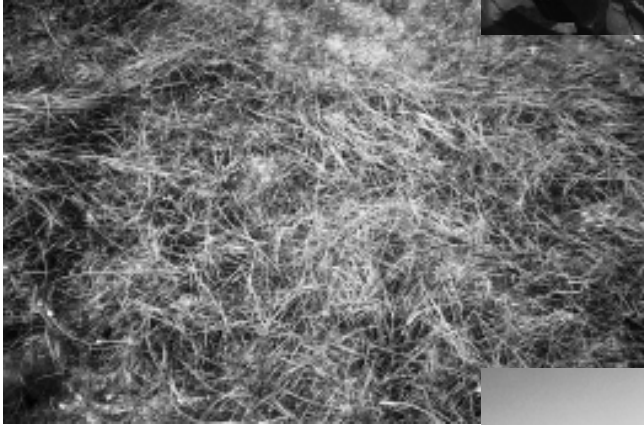


走古丹港から増殖場へ



増殖場到着

トラクターの耕耘部分(スキガラ:鋤柄)



増殖場のアマモ類(主にコアマモ)



トラクターによる駆除(耕耘)作業



トラクターによる耕耘跡